

プロジェクト進捗報告 ガボン共和国における なまず生産システム開発プロジェクト

1. はじめに

アフリカ西岸の中央部、ギニア湾に面した赤道直下の国、ガボン共和国は熱帯雨林がその国土の約80%を覆い、ゴリラなど貴重な大型哺乳類が数多く生息する国として有名であるが、一方で、ギニア湾に有する排他的経済水域は、我が国をはじめ多くの遠洋漁業国にとってまぐろ類の重要な漁場となっている。

定を締結し、その後良好な関係の下で入漁が確保されている。また、同国はIWCはじめ国際機関のメンバー国として水産物の持続的利用を基本的な方針としており、国際機関における友好国としても重要な国である。

同国政府は、貧困撲滅等の改善手段として、内水面養殖の普及振興への取り組みを優先的に実施することとしている。養殖有用種であるティラピアの養殖については、現地である程度生産が行えるようになっているが、成長率が高く、育成が容易であり、現地の嗜好性といった特徴から高い商品価値をもつ、なまずのより効率的な養殖技術については、まだ十分に確立していない。このような状況の下で同国政府の要請に基づく「なまず生産システム開発プロジェクト」が実施された。



ガボン

日本かつお・まぐろ漁業協同組合は2000年に同国政府とはえ縄漁船の入漁にかかる協定を締結したが、その後、ギニア湾でのまぐろ漁場の形成や大西洋公海漁場の補完的漁場としての重要性が高まったことから、それまでの協定を見直し、2007年に向こう5年間を期間とする新たな入漁協

2. プロジェクト概要

(1)実施期間

2008年9月15日～2011年3月31日

(2)実施機関

海外漁業協力財団

ガボン共和国農業・牧畜・漁業・地方開発省水産・養殖総局

(3)派遣専門家

牧之内 貞治

2008年9月15日～2010年8月13日

五十嵐 誠

2010年7月12日～2011年3月31日（予定）

(4)プロジェクト目標

なまずの生産システムを構築し、養殖技術の移転によるなまずの生産を向上させる。

(5)活動計画

1) 初年度目

必要な資機材の調達および既存施設の整備
情報収集のための現地調査

2) 2年度目

なまずの生産システムの開発
普及員の教育訓練

3) 3年度目

普及活動への支援
養殖マニュアルの作成

3. プロジェクトの進捗状況

本プロジェクトは、2008年9月に同国農業・牧畜・漁業・地方開発省と海外漁業協力財団との間で覚書が締結され、専門家1名を派遣し開始された。



種苗生産試験に成功（2009年11月）

当初1年間は、現地の養殖施設の整備に多くの時間と労力を費やした。プロジェクトの実施場所としている水産・養殖総局ペリエ養殖場はリーブルビルの郊外に位置しているが、地下水が湧き出る湿地帯に整備されており、プロジェクトにおいて実施した養殖池の整備、沈殿槽の設置、研究室の整備などは掘削による地下水の湧出や、熱帯独特の激しい降雨に影響され、当初計画の完成期限から大幅に遅れる結果となった。

種苗生産試験については、第2年度目に対象魚種2種類（*Clarias gariepinus* と *Heterobranchus*

longifis) のうち親魚が確保できた *Clarias gariepinus* について試験を実施し、約3か月間の親魚育成を経て、2009年11月に雌7尾から88万粒の採卵を行い、雄7尾の採精による受精により45万尾のふ化仔魚を得る種苗生産に成功した。



成長した若魚-1

ふ化仔魚は、一部を養殖池に放流し粗放的な育成を行い、一部は各段階（仔魚、若魚、親魚）の育成のための試験を実施した。育成試験でこれらのふ化仔魚は、2010年3月時点で約4,000尾が生残り、平均体重25～50gの若魚に成長、その後2010年8月末時点では、2,300尾が生残り、このうち409尾を再生産用の親魚候補として確保した。



成長した若魚-2

プロジェクト最終年度では、人工的に生産された種苗が各成長段階を経て、親魚として種苗の再生産を実現させることを計画しており、そのために2010年10月以降に再生産試験を実施する予定である。

また、これまで親魚の確保ができず、種苗生産試験を実施する事ができなかった *Heterobranchus longifilis* については、2010年8月に内陸のブーエおよびマコクにおいて実施した野外活動により捕獲することができた。この種は比較的清浄な水質を好むことから内陸奥地に生息しているといわれており、これまでも現地の漁業者から捕獲の情報が寄せられていた。これらの地はリーブルビルから東方に車で約8時間以上かかる遠方であり、専門家はカウンターパートとともにキャンプを行いながら、漁民からの買い付け、また延縄等による漁獲でようやく健全な親魚候補11尾（♂8尾、♀3尾）を捕獲し、大きな成果を上げる事ができた。大変な苦勞のうえ貴重な親魚を確保したこの経験は、プロジェクトに好影響を与え、特にカウンターパートは養殖事業における親魚の丁寧な取り扱いの重要性を十分に認識する貴重な機会となった。この11尾は長い道中では手厚く扱われ、無事にペリエ養殖場に到着し、現在は飼育池にて馴致育成中であり、成熟状況に合わせて種苗生産試験を実施する予定である。



Heterobranchus longifilis

ヒレナマズ科ヒゲナガヒレナマズの一種

カウンターパート2名に対する技術移転も順調に進んでおり、2011年1月にはそのうち1名は研修生として本邦に受入れ、独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所において魚病を含む養殖についての研修を実施し、技術移転の総仕上げを行うこととしている。



専門家とムイラ水産支局スタッフ

4. おわりに

本プロジェクトは2011年3月31日で終了することとなっているが、最終年度に計画されている2種類の種苗生産、種苗育成マニュアルの作成、民間養殖業者への種苗の配布と技術指導等を実施することによりナマズの生産システムが構築され、本プロジェクト終了後の自立発展に向けた体制が整うこととなる。

(本文は2010年9月の状況に基づき記載した。)